

交叉点24

明高24回生通信

28th/Feb. / 2019

No. 17

退職して思うこと

3年3組 池田(岩井)幸子

高校を卒業して47年になる。その間、交叉点を読んで皆さんの仕事での活躍や家事、育児に励んでおられる姿を思い描いて懐かしく、また楽しんでいた。

そこに突然、大西和彦さんが私に原稿を書くように言ってこられた。

私は元来、特徴のない、どこにでも居るような人物。私生活では平凡な人生を送ってきたので興味深い出来事もないが、OKの返事をしてしまったので、四苦八苦しなながら書いている。

私は、高校を卒業し明石市役所に就職した。その後、結婚、子ども2人を育てながら定年まで勤めた。

市の行政職は仕事上で、この施設を建設したなどという目に見える成果は何もないが、印象に残る出来事は『大蔵海岸での花火事故』である。

平成10年に明石海峡大橋が完成し、大蔵海岸から見るライトアップされた大橋は素晴らしかった。きっと夏祭りの担当者も思ったと思う。このロケーションをバックに花火を打ち上げれば素晴らしいに違いないと。その予想は的中し、大勢の人が押し寄せ、思いもよらない事態が起き、事故に繋がった。計画の甘さなどいろいろと指摘される点はあると思う。私は直接の担当ではないが一職員として、被害者の方々とお会いしてお詫びをする中で、「とんでもない申し訳ないことが起きてしまった。どうしたらいいのだろう」と思いながらも断片的な情報だけしか入らない。庁内の雰囲気も一変し、合意を得て決済し、計画を

実行したにもかかわらず、個人の責任が問われるようになった。この時の組織の変化にビックリしながら、私にできることは被害にあわれた方々がスムーズに医療機関で受診できるようにする事。そうすることで、市は少しでも償えると思った。この時思ったことは、どんなに大きな事でも、それぞれが着実に持ち場を固めていけば、少しずつではあるが前に進む。起きてしまった事に対して個人を責めるだけでは何も進まない。前に進むことが大切だと思った。この事故と私の日常とは特に繋がらないが、ただ漫然と仕事をしていた私の意識が変わった。

どう変わったかはヒミツ！



明石市もこの花火事故のあと迷走をしている。同年の12月には大蔵海岸での陥没事故があり、そのあと岡田市長から北口市長に代わった。市長のフェリー支援にまつわる事件が発覚し北口市長は2期で退任した。この原稿を書いている2月1日には、泉市長がパワハラで辞意を表明した。公務員は怠慢で仕事をしないと叩かれるが、こうも市長に振り回されるのもどうかと思う。どうか、統一選挙では素晴らしい市長が就任されていることを祈る。一市民として。

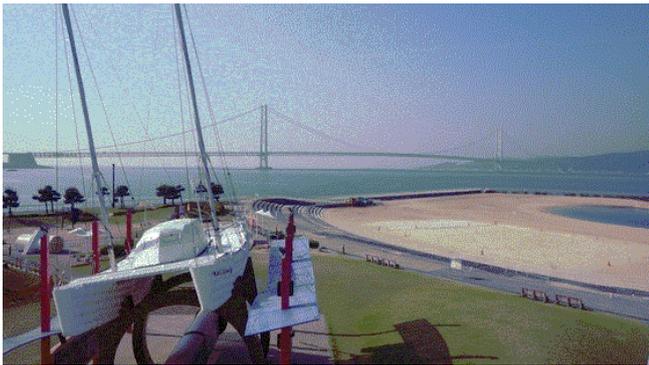
近況報告

3年10組 松尾 和彦

専業ジイサンになってもうすぐ二年になりますが、昨春チョットしたキッカケでまた犬を飼うことになりました。まああと十年やそこらなら犬の世話ぐらいできるやろと。

で、毎朝大蔵海岸までお散歩で、御転婆な柴犬に引きずりまわされてます。

大蔵海岸。いい公園になりました。犬の散歩は言うに及ばず、散歩する老夫婦、ジョガー・ウォーカー、太極拳に興じるお年寄り、時間によってはサッカーに懸命な子供たちや釣人、海を眺める若者たち（砂浜でバレーボールするのもいます）、木の下でサックス吹いてる人も見かけたことがあります。



人間ウォッチングしていても、観光バスの外人観光客が目立つ舞子公園・アジュール舞子より大蔵海岸の方がよっぽど面白いし落ち着きます。

悲しい出来事や無駄遣い、いろんなことがありましたが、景色がよくて開放的で海岸、緑地と遊歩道がそこそこ整備されたから、作った時の市の思惑とは少し違っているかもしれませんが、地元の多くの人が気持ちよく利用できるようになったと思います。私的には花火大会などやる必要もなかったと思います。

こんなふうに、回り道をしててもそのうち本来備わった個性が認められて落ち着くべきところへ落ち着く、ということが人に

関しても言えるのであれば、ウチの子供たちもそろそろなんとかならんかと思えます。

さて、私も無事六十五歳を迎え老齢厚生年金がいただけるようになりました。幸せなことに勤めていた会社の企業年金も多少あります。その他の不労所得も少しはあるので働かなくても十分暮らしていけますから、若い人の仕事を取り上げるようなことはせず専業ジイサンを続けるつもりです。

ありがたいことですので、収入は丸ごと使い切ってしまうと思っています。若い時は将来への不安がありましたけど、これから先のことは目処がついています。せっかく若い世代からいただく年金なんですから、ため込んでお金の流れを悪くするようなことはせずバンバン使って僅かでも経済の活性化に貢献するべきではないか、それもシニアの役割ではないか、などと図々しくも考えるこの頃です。

とは言ってみたもののお金を使うのも結構難しい。まず、生活必需品以外のモノを買うのは良くない。モノは溜まってしまっているので、子供に迷惑がかかる。現に私も、昨年両親の七回忌を済ませたものの実家（といってもウチの隣ですが）の片づけが終わっていない。まあ、ウチの方もなかなか終活（モノの整理）が進んでいないから偉そうなことは言えませんが。

大概のモノは処分の手を煩わせたうえ結局ゴミになってしまうんだから、やはりコトにお金を使った方が良いと思います。世間には何も残らないし、自分への投資なんて言ってみたところでおそらく何のリターンも提供できないでしょうから、無駄遣いと言えはその通りですが、少なくともお金は回っていくので、何もしないよりは人のためになるでしょう。

美味しいもの食べて旅行に行って、お稽古事や芸術鑑賞等々にもドンドンお金を使いましょう。

結果として外へ出て身体と頭を動かすことでうまく歳をとっていければ、介護保険のお世話になる期間を遅く短くできるかもしれません。それはそれで世のため人のために良いのではなかろうかとも。

必要以上にお金を貯めこんでも誰も喜ばないし、誰のためにもならないでしょう。子供たちにしても、お金のことよりも手のかからない親の方がよっぽどうれしいだろうし。まあ、身に合わぬ贅沢して身上食いつぶしちゃったら呆れられるでしょうけどね。

追憶の彼方へ、、、明石高校ありがとう！

3年10組下山祐司

65歳になって転居した。その知らせを同窓会幹事の河合君にメールで連絡すると、了解の返事に添えて、交叉点の原稿を依頼された。驚きである。高校時代さして目立つ事もなくひっそり過ごした自分が、この歳になって原稿を依頼されても…と戸惑いが先に立つ。果たして原稿が集まらないのでは…と半ば同情する気持ちもあったが、そのまま時間が過ぎて行った。そんな折、高1の時同じクラスで友達になって以来ずっと交流を続けている庄司文人君と酒席をもつ機会があった。彼も再雇用を終えて、晴れて自由人となり、孫の世話などに日々を過ごしているようであるが…

斯く云う自分もこの春(2018年3月)長らく生業としていた学習塾を畳んで無職・無収入の身となって現在に至っている。さて、果たして庄司君(現役合格)も私(二浪)もなんとか国公立の大学に進学して社会へ巣立つ事になったのであるが…。

酒席で霞む思い出をたどりながら高校時代を振り返れば、二人とも同様の思いで相槌を打つ事が多いのである。高校時代は謂わば、暗黒時代、あるいは今の自分を育てるための畑の畝に植えられた種の時代で、しんどかった！というのが二人共通し

た率直な感想だった！並みいる秀才揃いの中で自分の芽を土の上に出し、苗を育てることは確かにしんどいことだった。それぞれ個性のある先生方が、善かれと、授業や学級運営の中でどんどん肥料や水を与えて下さるにも関わらず、それに応じて中々個性を伸ばしきれずに3年間を終えたように思う。

先日の酒席で二人とも何か良い思い出は無いのか？と追憶の彼方に消え去ろうとする細い糸を手繰り寄せながら、思い出したことがあった。

①アルハンブラ宮殿の思い出…

社会の中尾先生だったか中畑先生だったかさだかではないが、(申しわけないことですが)教室にラジカセ持参で来られて、授業の流れの中で世界史の教科書のグラナダの宮殿の中庭の写真を見て、当時に思いを馳せて欲しい！との意向からか？聞かされた「アルハンブラ宮殿の思い出(ナルシソ・イエペス)」が二人とも共通した美しい思い出として蘇った。庄司君はそれがきっかけでクラシックギターを始めたそうだ…確かに何か、芭蕉が平泉を訪れて「…兵どもが夢の跡」と詠んで往時を偲ん



だように、私の脳裏にも、幾多の争いの歴史に翻弄されてきた宮殿は、その美しさと共に何か言い知れぬ悲しみも秘められているように感じながら、宮殿の中庭を歩い

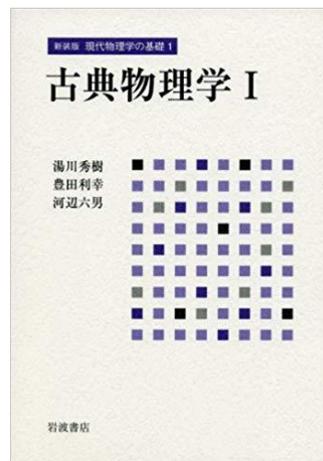
ているような、そんな錯覚に陥るほど感動した場面が、かつて宮殿の中庭を歩いていたような、そんな錯覚に陥るほど感動した場面が思い出された。そんな僅かな思い出を肴に酒肴は進み、あっという間に3時間を過ごした。さて、いつか行ってみたいとも思うが、気力、体力、財力が心配…。

②田浦先生の背中

さらにもう一つ私には「田浦先生の背中」と題したい個人的な思い出がある！自分が浪人をして明日が受験という日、西明石駅から新幹線に乗って東京を目指したのだが、あろうことか、座席の2列前に見覚えのある、しやきっとした背中、白髪交じりの数学者然とした細身の長身！紛うことなき田浦先生も西明石駅から乗って来られていたのである。私は声を掛けて挨拶しようか？それとも挨拶せずに過ごそうか？と葛藤しながらまんじりとも出来なかった。結局、挨拶をせずに終わり東京駅でそのお姿を見失ったが、2列後ろの自分は田浦先生の背中を見ながら「今度はきっと受かって見せますから…」と心の中で呪文のように唱えつつ緊張した3時間余りを過ごしたのである。このことは今日まで誰にも口外したことがないが…。その御蔭なのか、当節の入試では予想外に数学が出来て、入試が終わった時点で「合格した！」と内心思えたのである。

③古典物理学

あれは高2だったか、押原先生の物理の授業後、スチール製の本棚の中にあった「古典物理学(原島鮮著)」という名著を借りたことがあった。その後、数ページ読んだだけで投げ出してしまった。それからの記憶が無いのである。その後、母が他界して地元で学習塾を開く折に蔵書を整理すると、なんと高校で借りたままの古典物理学の本が出てきたではないか？どうしようか！このままうちやっておくか？などといういい加減な考えで57歳までそのこと



を忘れたように過ごした。しかし、塾の教え子の2人が明石高校に受かって、物理が難しい！などという悩みを聞いているうちに、はたと古典物理学の本の事を思い出した。直接自分が出向いて頭を下

げて返却するのが筋である。が、小心者の私にはそれができない。心痛いが、この純朴な教え子達に、礼を逸した事の詫び状を添えて物理の先生に返却をするように依頼したのである。なんと40年間もよくもまあ、能天気にも借り続けていたものである。鬼籍に入られた押原先生！本当に出来の悪い生徒でした。すみませんでした。

満天に輝く綺羅星のごとく、地位や名誉や業績を残された同窓生、目立ちはせずとも地上の星となって、活躍された同窓生、今もなお、社会貢献に汗水流して働いておられる現役の同窓生…いろんな同窓生が居られることと思う。しかし。ゴールはみな同じ、いずれはこの地上を去る。一日一日を悔いなく過ごすように心掛けたい。私の場合は、自分が40歳のときに母を、58歳の折に父を、62歳の時に兄を見送り、残された高々20年の人生をどのように整理しようかと案じながら過ごす日々である。人生30000日ほど…なんとも速いもの…。そう考えて計算すると、私達24回生は皆既に23000日以上を生きることになる。健康であれば、残された日々は約7000日という冷厳な事実を直視することは結構つらいことだが受け入れるしかない。

私に限っていえば、体は徐々に衰えて、足腰は痛み、白内障や緑内障になり、頭髪も薄く、所謂「白頭を搔けば更に短く、すべて箸(シン)に勝へざらんと欲す」という春望を詠った杜甫の不安とシンクロする

今日この頃である。自分の寿命さえ未だに把握出来ない青二才のまま今日まで何とか生き延びてきたのだが、前期高齢者のこの歳になっても心が歳を取らないことが不思議でもある。あと何年この地上に居れるか分からないが、残された幾つかの課題を片づけつつ、静かに、余生を過ごそうと思っている。

2018. 11. 14

新居(方丈の庵)にて、徒然に書いてみました。

河合昭彦様

依頼された原稿を眺めてみましたが、どうもうまく明石高校の同窓生の心情に触れるようには書けませんでした。追憶の中の明石高校に慕情を誘うような話も無く、これで勘弁してください。

また、交叉点が他の文で埋まって、掲載不可であればそれでも結構です。原稿が遅くなったのは、文を読んで頂ければ納得いくと思います。

既に前期高齢者の枠に入り、人生の終末ばかり考えるようになりました。それでもなるべく周囲に迷惑のかからないように、気を張って過ごそうと思っています。

何十年もの間、窓会幹事のしんどい役割を背負って頂き、どの様に慰労して差し上げたらいいかわかりません。しかし、その見えない御尽力は多くの心ある同窓生は理解し、慰労の念をいただいていることと思います。本当に長い間、ありがとうございます。この場を借りて、御礼申し上げます。どうぞ息災に過ごされて、好々爺となって次世代に徐々にバトンタッチをなさってください。

それでは、失礼いたします。草々

次回の『明高 24 回生同窓会』のお知らせ
細田和宏 (旧 4 組)

明高 24 回生同窓生の皆様、明高を卒業して、ほぼ半世紀が過ぎようとしています。お変わりございませんか。私は、次回『明高 24 回生同窓会』幹事代表の細田和宏です。

来年 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの年に、第 9 回『明高 24 回生同窓会』を開催いたします。



今回、幹事になって頂きましたのは、向井(大向)百合子さん(旧 1 組)、河合(米澤)嘉美さん(旧 1

組)、大津(一井)万里子さん(旧 3 組)、藤井(三好)恵子さん(旧 4 組)、小林正人さん(旧 6 組)、佐伯敏裕さん(旧 6 組)です。

私達幹事一同は、1991 年に第 1 回の同窓会を開催して以来、歴代の幹事の方々が繋いでこられた、『明高 24 回生同窓会』の襷を、感謝と敬意の気持ちを持って受け継ぎ、よき師よき友と共有した青春時代の感動の記憶を蘇らせて、皆さんに喜んでいただける同窓会にしたいと願っております。

皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

ほのぼのと 明けゆく日々の 思い出は
友との出会い 感動感謝

事務局からの連絡

住所が不明となっている方々の情報提供をお願い致します。(2018 年 5 月現在)

1 組 菊川忠男 岸本一朗 坂本隆彦
村瀬繁樹 八木義孝 泉谷恵子
松尾洋子
2 組 安藤悦郎 竹村郁子 長谷香代子

- 3組 北田雅福 高橋英樹 高見訓司
土島日出彦 増子 隆 藤永みどり
秋定和子 平野由美子 鈴木佳子
- 4組 奥野好隆 田村政一 仲井 透
内田志津子 大泉尚子 山口哉子
- 5組 大村直樹 佐藤市朗 橋本成弘
長谷川俊広 山本和彦 魚住篤子
坂本嘉代子 中川ゆかり 平山登志子
松末純子
- 6組 近石 弘 馬場滋夫 西馬慎三
加藤明江 米谷嘉子
- 7組 足立真知子 近藤恵子 坂本京子
佐藤美智子 富岡るみ 森江真岐子
盛井雅子
- 8組 諸岡宗司 山崎清孝 庄司真弓
田中英子
- 9組 魚住一裕 魚谷雅弘 加藤和宏
三浪晴生 安井 潤
- 10組 木下孝一 黒田幸雄 西森正二
久山哲広 安尾弘文 山崎栄造

*名簿の管理は、手作業で行っております。ミスはご連絡ください。

《連絡先》事務局 河合昭彦

〒674-0051

明石市大久保町大窪 1000-1

Tel. 090-8659-5628

Fax. 078-934-1667

メール kawai@dokikai.net

注) 河合に連絡いただいた住所はサラトに連絡しますが、サラトに連絡された住所は河合には届きません。

「24 回生のポータルサイト」のご案内

明高 24 回生同期会関係のホームページのリンク集を作りました。

卒業アルバムへのリンクもあります。

<http://mokuzi24.dokikai.net/>

会員登録」や「IDとパスワード」の必要なページがあります。

不明な点は河合 (kawai@dokikai.net) (090-8659-5628) まで問い合わせてください。

・メールアドレスをお知らせください
携帯、PCを問いません。

頂戴したメールアドレスは、同期会の連絡用に使わせていただきます。

下記アドレスにメールを送っていただければ登録させていただきます。

携帯の機種変更、転退職、転居等でメールアドレスを変更された方もよろしくお願いたします。

m24@dokikai.net



*QR コードです。携帯でのご連絡にご利用下さい。(機種によっては使えません)

*携帯・スマホをご利用の方

meiko24@dokikai.net

からのメールを受信可能にして頂けると同期会のメルマガが受信できます。

原稿は常に募集中です。

引っ越しされた、転勤された、お孫様の話題等々、なんでも結構です。

通常の段取りとしては、毎年、11 月一杯を目途に集めた原稿を中村(守)がレイアウト、2月の理事会でサラトさんに渡します。

1 月中くらいまでに、メールもしくは郵送にて原稿をいただければ掲載できます。